

文化庁「日本博」企画委員会（第1回）議事要旨

【日 時】

平成30年12月17日（月）10:00～12:00

【場 所】

文化庁特別会議室

【出席委員】

織田紘二委員、河村潤子委員、コシノジュンコ委員、小松大秀委員、小山薫堂委員、島谷弘幸委員、高階秀爾委員、根立研介委員

【事務局】

宮田長官、中岡次長、杉浦審議官、坪田参事官、榎本企画調整課長、奥主任調査官、三輪新文化芸術創造活動推進室長

【議事概要】

事務局から「日本博」について、概要の説明があり、その後、意見交換が行われた。委員からの主な発言・意見は以下のとおり。

- 伝統文化と現代は、ずっと繋がってきているものであり、それをどう見せるかが重要。
- 「文化」を横串として日本全体が繋がるのは、とても良い企画である。なお、「日本博」だからといって日本人ばかりがキュレーションをする必要はないと思う。
- 2019年からということであれば、至急、やることを決めないといけない。
- 「文化イベント」には、文化人は集まるが、それ以外の人が集まらない。「日本博」は、全員が参加できるようなものにする姿勢が重要である。
- 日本の役所は自分を発信するのが下手であり、是非、積極的な情報発信をしていただきたい。メディアとの連携・活用が大きな課題である。
- 博物館・美術館の現状として、古いものをやるところと新しいものをやるところで分かれてしまっている面がある。それらをどうコラボレーションできるか。オリパラ開催期間中は逆に博物館・美術館へ行く人が減るといふ指摘もあるが、伝統芸能と現代美術をコラボレーションさせたりすることができれば、普段来ない人達が来てくれるのではないか。
- 地方の美術館は疲弊してるため、「日本博」に参画することでどういったメリットがあるのかを示せるようにすることが必要。
- 海外の博物館等に行くと、大勢の子供達が来館しているが、この点で日本は遅れている。子供が来ない博物館に未来はない。そういう意味で、「日本博」は良い機会になると考える。
- 子供達が、自分の身近な地域文化等を発信する機会を設けると良いのではないか。

(以上)